

SDGsの実践を学ぶ

下川で駒場学園が修学旅行

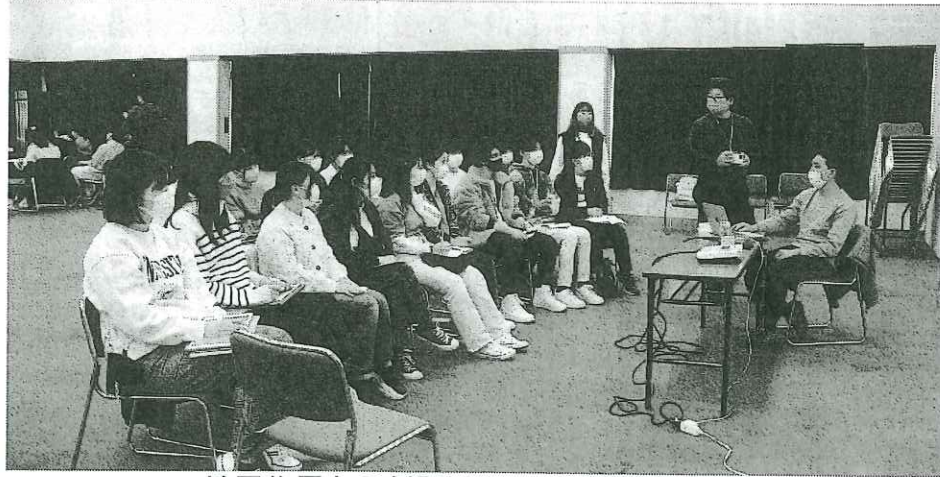
【下川】下川町内で、昨年から町の森林環境教育に取り組むNPO法人森の生活(麻生翼代表)が窓口となり、東京都世田谷区にある駒場学園高校の修学旅行を受け入れている。今年も10月23、24の両日、同校2年生50人以上に、下川町のまちづくり、町内起業家などの経験から、SDGs(持続可能な開発目標)の学習とキャリア教育を展開した。

駒場学園高では新型

コロナウイルス感染症で間伐実演見学、木工体験、薪屋とみながの修学旅行が難しくなり、昨年からSDGsをテーマとした国内で可能な体験旅行に転換。北海道、九州、四国などさまざまな地域のコースを設け、生徒各自で選んだコースに参加している。

今年も2年生450人のうち、53人が北海道のコースを選択。下川町はその前半に組み込まれた。

下川町では森林現場



地元住民との対話でキャリア教育も展開

24日午後1時から町バスターミナル合同センターでは、下川で起業、移住によって新たな仕事に就いた20、30代の地元住民4人によるプレゼンテーションを展開した。

大石陽介さん(宿泊・ツアー事業)、塚本あずささん(漢方・アロマセラピー)、小嶋恵実さん(タウンプロモーション)、大松直矢さん(観光協)が、これまでの人生、下川で次のキャリアに歩み始めた経緯を紹介。生徒たちの質問に

答えながら対話した。生徒たちは「自分の意志でやりたいことを選択する決断をし、それを一貫して前向きに取り組む姿がすごい」と話し、進路選択を控える中、参考になった様子。修学旅行で北海道を選択した理由に「食べ物がおいしい」「寒い冬を感じてみたかった」などと述べ、訪れたことで「自然と関わる仕事をしている方たちの話が聞けて、貴重な経験になった」と語る。

(小峰)